

指導資料

情報教育 第 96 号



鹿児島県総合教育センター

— 小, 中, 高, 盲・聾・養護学校対象 —

平成 16 年 10 月発行

校務の効率化を図るグループウェアの活用

校内 LAN の効果的な運用の一つとして、グループウェアの活用がある。その意義や内容については理解されているが、有効な活用には結び付いていない現状がある。

そこで、本稿ではグループウェアを用いた校務の情報化や、児童生徒の「情報活用能力の育成」を促進するグループウェアの教育活用について具体的に述べる。

1 グループウェアの概要

(1) グループウェアとは

グループウェアは、コンピュータネットワークを利用して、複数の利用者からなるグループでの情報の共有化、電子会議室や電子掲示板を用いたコミュニケーションの効率化を図り、グループによる「共同作業」を支援するソフトウェアの総称を指す。

(2) グループウェアの目的

グループで「共同作業」をする目的は、作業を分担するのみならず、各個人の特性や能力を最大限に生かし、互いの情報を共有しながら業務の効率を高めることである。

また、「協働学習」としての意義もある。

校内 LAN にグループウェアを導入することにより、情報の一元化が図られ、校務の効率化が一層推進する。このように、

グループウェアは、日常の煩雑な校務を手助けする便利な道具（ツール）として役割を果たしている。

2 学校向けグループウェアの機能

学校向けグループウェアには、次の三つの機能がある。

- 1 校務支援機能
教職員同士の「情報の共有化」により、校務の効率化を目的とする。
- 2 教育支援機能
児童生徒の「情報活用能力の育成」を目的とする。
- 3 運用支援機能
「情報のセキュリティ管理やデータベース構築」を目的とする。

(1) 校務支援機能

ア 文書管理

サーバ上に共有フォルダを作成することにより、校務を遂行する上で作成される文書ファイルなどの更新、修正、保存などが容易になる。具体的には、毎年の文書作成業務が軽減され、児童生徒の名簿や住所録から必要に応じた名簿や名票の作成をすることが可能となる。

イ 情報管理

校内の様々な場所で展開される学

習活動の情報や連絡事項をネットワーク共有エリアに掲示することにより、情報の一元化や共有化を図ることができ、情報伝達が確実となる。さらに、各種調査の依頼や行事などの日程・時間変更、保護者への連絡事項など、変化する情報をリアルタイムに掲示することができる。

ウ 出欠管理

児童生徒の欠席連絡、早退・欠課連絡など、その日の児童生徒の出欠状況が把握できる。また、週間・月間・年間集計などの煩雑な業務が軽減される。

エ 施設・備品管理

特別教室、各種機器などの予約がネットワーク上で可能となり、施設や備品、機器の利用状況が確認でき、効率的な利用・運用が可能となる。

オ スケジュール管理

カレンダー機能により、各係が学校行事などを入力することで、週行事、月行事、年間行事が作成できる。また、個人のスケジュールを入力することにより、互いの動静を知ることができる。

(2) 教育支援機能

ア ホームページ運用

Webサーバを設置することで、外部には発信しない校内向けのホームページを開設することができる。この校内ホームページは、学級通信やクラス紹介、児童生徒の作品掲示、まとめ学習の発表の場になるなど、「情報活用の実践力」や「情報社会に参画する態度」の育成を図ることができる。

イ メール運用

児童生徒は、校内のメールを活用することで、教師に悩みの相談やアドバイスを求めることができる。また、授業の内容についても質問することができる。さらに、メーリングリストを構築することで、一つのメールを同時に複数の相手に送信することが可能となり、グループ内の幅広い情報交換が容易になる。

ウ 交流学习運用

電子掲示板、電子会議室を利用することにより、情報の共有化とともに、学習活動の支援を図ることができる。

例えば、感銘した本の紹介や感想を掲示板に書き込み、他の児童生徒へ情報提供を行ったり、学級日誌の公開による情報発信を行ったりすることが可能である。また、共通テーマをもたせ、電子会議室でのディベート（他のクラス、違う学年）を行うなど、様々な活用方法が可能であり、児童生徒間の交流学习の一端となる。

(3) 運用支援機能

ア ユーザ管理

児童生徒、教職員などのユーザ管理をすることにより、利用者による情報の制限が可能となり、セキュリティを高めることができる。

イ データベース管理

グループウェア上でデータを作成することにより、データの管理・更新などや各学校の実態に応じたメニュー画面の変更や設定ができる。

3 学校向けグループウェア「こあっと」の導入・設定について

本県においては、平成15年度に県立学校13校が「IT活用教育研究推進校」として校内LANを整備し、グループウェアとして、「こあっと」を活用した推進が図られているところである。そこで、「こあっと」について紹介する。

(1) グループウェア「こあっと」とは

「カーソル研究会」が、学校現場の要求により作成したソフトウェアで、使用権フリーとして公開されている。



図1 「こあっと」のメニュー画面の例

(2) 「こあっと」のインストール方法

ア Webサーバにダウンロードして、解凍した「Coat」フォルダをコピーする。「C:\¥Inetpub¥wwwroot」の下にコピーすること。

イ 「こあっと」の他に、多機能コンポーネント「BASP21.d11」をダウンロードし、インストールする。

(ダウンロード先URL)

<http://www.hi-ho.ne.jp/babaq/basp21.html>

(3) Webサーバの設定

ア エイリアスの設定を行う。

(ア) 「Coat」フォルダをクリックして [共有] を選択し、図2の画面表示の「Web 共有」タブを選ぶ。設定で「規定のWeb サイト」を選び、

「このフォルダを共有する」をクリックする。

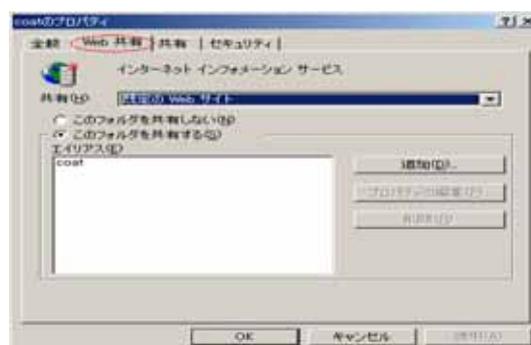


図2 Coatのプロパティ画面

(イ) アクセス許可 [読みとり] [書き込み] にチェックし、実行アクセス権 [スクリプト] にチェックする。

イ アクセス権の設定を行う。

(ア) Windows NT Server, 同 2000 Server の場合は、フォルダへのアクセス権設定にチェックを行う。

※ ユーザ名 (コンピュータ名) が、「Coat」フォルダに対するアクセス権を与えていないと、情報の書き込みなどができない。

(イ) ユーザ名 (コンピュータ名) または、Everyone に対し、「Coat」フォルダに対するセキュリティのアクセス許可を [フルコントロール] 設定にする。

なお、各設定の詳細や運用方法については「カーソル研究会」のURLを参照され、各学校で活用していただきたい。

《カーソル研究会のURL》

<http://www.net-web.ne.jp/carsol/>

4 グループウェアを活用した授業実践例

「グループウェア」は校務だけでなく、教科や総合的な学習の時間・LHRなどの指導においても運用が可能であり、その実践例も数多く報告されている。ここでは、グループ活動機能である掲示板を利用した「高等学校・商業科」における実践事例を紹介する。

【グループウェアを利用した学習指導案例】

単元名	「最近流行っている商品」(商品と流通)	本時	2/4
本時の目標	グループウェア(こあっと)の掲示板機能を利用し、一つのテーマに基づいて生徒の意見を収集することで、いろいろな意見があることを知り、ビジネス活動についての理解や関心を深めることができる。		
段階	学習活動	指導・評価の留意点(☆は評価を示す)	
導入 (5分)	1 前時の作業内容の確認 2 本時の作業内容の確認	○ グループで確認させる。 ○ 前時で、グループウェア上にある掲示板への書き込みを集約し、グループでまとめる作業であることを説明する。 ☆ 本時の内容について関心をもてたか。	
展開 (40分)	3 意見の集約(グループ活動) (1) 掲示板の書き込みを、付箋紙に記録する。 (2) 付箋紙を商品(意見、情報)ごとにまとめる。 4 考察 (1) 集約した意見を基に、なぜその商品が流行しているのかを考える。 (2) 書き込みの多かった商品について調べる。 5 まとめる (1) 発表のためのWebページを作成する。 (2) 発表用原稿の作成	○ グループウェアにログオンし、公開していた掲示板を非公開に設定させる。 ○ A3用紙に付箋紙を貼り付けながらまとめさせる。 ○ 流行っている商品に共通していることはないか、その要因は何かなど、適切な助言を行う。 ○ グループウェアの「インターネット機能」を利用し、調べさせる。 ○ グループウェアの「まとめよう」を使って、Webページを作成させる。 ☆ グループウェア利用に慣れてきたか。 ○ ワードプロソフトで作成し、グループウェアの共有フォルダに保存させる。	
まとめ (5分)	6 本時の感想・反省の記入 日誌に記入する。 7 次時の予告(Webページの作成と発表)	○ グループウェアの「グループ活動機能」に付属している日誌機能を利用し、本時の活動内容・感想・反省を記入させる。	

(県立串良商業高等学校 加世田 裕之教諭の実践を基に作成)

「グループウェア」の日常的な活用は、教師、児童生徒の情報リテラシーの向上や情報モラル、著作権教育などの必要な能力を身に付けさせる手段となり得るものである。また、校務の効率化により、「ゆとり」が生まれ、生徒との触れ合いの時間が増え、教科指導、生徒指導等の充実を図ることができるものとする。是非、「グループウェア」を構築し、積極的に活用していただきたい。

【参考文献】

荒川信行/石出勉/横枕雄一郎共著 『実践スクールネットワーキング』 オーム社 平成14年12月
社団法人 文教施設協会 『校内ネットワーク活用ガイドブック』 平成15年3月

(情報教育研修課)